

令和5年度 協議会総会を開催（6月6日）



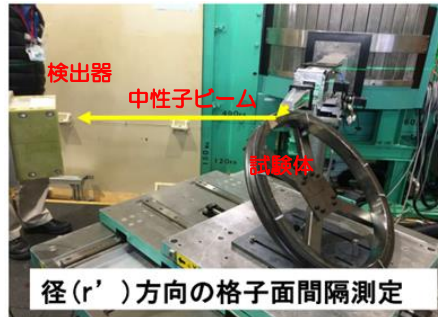
6月6日13時30分から、ひたちなかテクノセンター研修ホールにて令和5年度いばらき量子線利活用協議会の総会が開催されました。

冒頭、須賀会長(㈱NAT代表取締役社長)より「電気料金の高騰、円安ドル高、長引くコロナ渦等大変厳しい環境の中、会員の皆様が事業継続され、協議会も210社まで発展した。J-PARC利用促進に係る支援とJ-PARCの周辺機器の開発に係る支援、及び量子線技術を活用した新事業・新ビジネスへの参入支援の3本柱で活動に取り組み、協議会をさらに活発化させたい」と力強く開会挨拶。さらに、県科学技術振興課／海野副参事から「本県は量子線の施設が多く立地している全国でも稀有な地域であり、今年から量子線に関する人材育成事業を開始するので、是非参加願いたい」との挨拶をいただきました。続いて、事務局／上村から昨年度の活動報告や実績統計の説明の後、本年度も引き続き会員訪問やマッチングイベントを通して量子線の利活用支援を図るため、ご支援とご協力をお願いしました。

その後、2件の発表がありました。最初に「茨城県新人材育成事業」について県産業戦略部／渡辺氏から本年度開始する量子線利活用技術研修に関する説明がありました。次いで具体的な中性子線利用事例として、(株)アンテックスの小泉氏から「旋回ベアリングの高周波焼き入れ部品における焼き入れ深さと内部残留応力測定」と題して、中性子回折測定を活用したベアリングのリング部分の応力を測定した事例の発表がありました。今後X線回折により全体の応力を評価した後、さらに中性子による詳細解析を計画中とのことです。

最後に、前述の研修の一環として総合科学研究機構(CROSS)の鈴木氏が「はじめての量子線利用」、CROSS/茨城大学の小泉氏が「量子線人材育成プログラムのご説明」と題して、中性子を含む量子線がどのように産業に役立つか、地域技術が量子線利用にどう活かされるかを実例を挙げて説明されました。

本年度は55名(含事務局)が参加し、発表・研修とも活発な質疑応答があり、研修内容も好評でした。研修の今後のスケジュールは協議会でもメルマガ等でご連絡しますので、是非ご参加をお願いします。



事例 旋回ベアリング
の中性子回折測定状況
(㈱アンテックス)

総合科学研究機構 鈴木
氏による「初めての量子
線利用」研修状況



予告：QST那珂研究所 第2回技術交流会（7月26日）

7月26日にQST那珂研において、昨年に続き技術交流会を実施いたします。JT-60SAやITER計画の状況や、それらに関わる調達計画をご講演いただくほか、入札として出てこないような少額の案件や、企業との連携を希望する案件など、ここでしか得られないような情報を入手できる機会です。会員企業様がブース展示いただけるスペースを設けますので、研究者や発注責任者の方々へ直接アピールすると同時に情報交換ができます。

参加・出展費用は無料で、出展募集中です。

<https://www.ibaraki-quantum.com/uncategorized/623/>